

京都大学4次元デジタル宇宙シアター による天文普及活動

出展者: 京大天文台天文普及プロジェクト室
/NPO法人花山星空ネットワーク

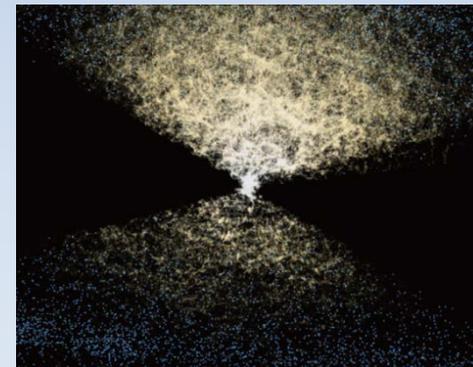
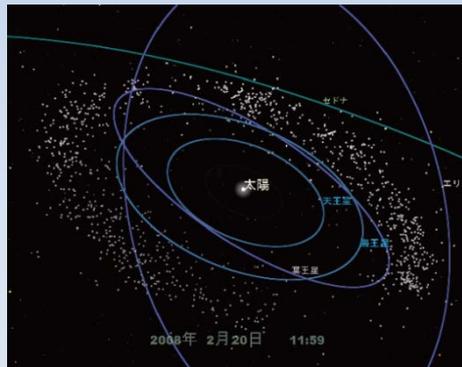
「京都千年天文学街道」

京都情報大学院大学 准教授/

青木成一郎

4次元デジタル宇宙シアター

- もともとは、国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクトが提供している天体シミュレーター「ミタカ」を立体投影したもの
- 京都大学天文台では、**独自の立体視用天文3D動画「Kyoto 4D」**を制作し、「ミタカ」と組み合わせた独自のライブ解説で上映



「Kyoto4D」

- 平面スクリーン用に制作

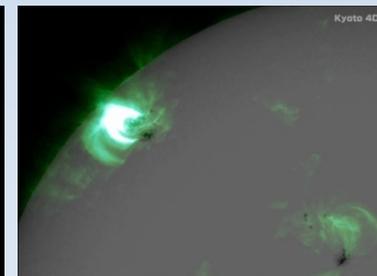
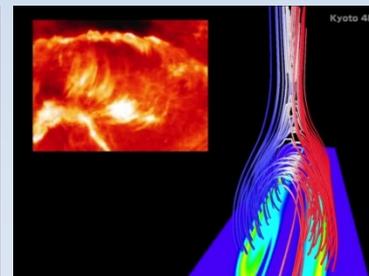
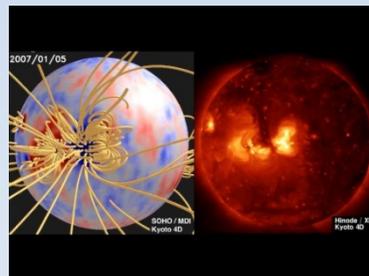
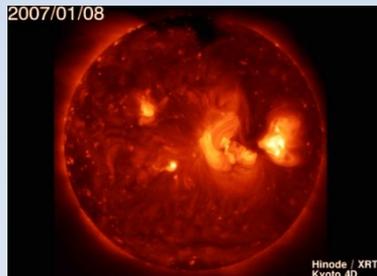
- 京大の学生と制作。京都大学学術情報メディアセンターとのコラボレーションによる制作もあり。

- コンテンツ

- ようこう衛星による太陽X線像(10年間分の観測データ)
- ひので衛星による太陽X線像
- 太陽の磁場構造とひので衛星による太陽X線像
- 太陽フレアの仕組み

- 非立体視投影の動画としても使用可能

- 非立体視用の一般的なフォーマットの動画(WMV,AVI,MPEGなど)2つを同期再生



科学コミュニケーション教育

- 解説員育成のための講習会、ポケゼミ「天文台で学ぶ科学コミュニケーション」
 - 青木が講師
- 育成数: 102名
 - 京都大学教職員(主に天文台関係者)、京都大学学部生・大学院生(文系/理系)、京都大学以外の大学生(文系/理系)、高校生(堀川高校生徒)、一般の方(天文愛好家)など。
- 解説員の上映の機会
 - 京都府内小学校への出張上映、京都大学天文台一般公開、京都大学総合博物館企画展示、NPO花山星空ネットワーク観望会など。

